諸秘

謡諸新式大成

下

利5
2213
24

利5
門へ
號 2213
巻

切字說

是を切字と名づくる事式の字を書り反切の
の二字或は一字にいく音韻展轉相協ふ法と
反音平声与翻同 毎字相摩〳〵聲韻とする
これを切といふと是を誹諧りとりいく
五七五乃音句展轉〳〵句となり或は動乃ち弦
を繼ぎ新句而りいひ惜しむ或は自問自答し
あるひは他ふ問他よりて字を添ふ物ひ
裏一ゆく身のかと称き月砧烟節に頃し
くれ卿んと若しむの歌これを見図の二

いまだ記るの情なり句中に季をとらるる乃
理なくして見冥を発するといふを示すものなり
されば則系と情とを兼ねて章句を
人をして和従せしむる乃字眼なり一字なり
二三字のあいだを切字といふ切い割なり
とりわけ古いにしへ切物苟取整齊不顧
縦横上下の切物苟取整齊不顧
又七文の内いづれかを切字といふものへ入るを
いまだ一句を判断しかたなきなり他の国と異
なるしむるなり乃古魯の字を造れり

長短屈曲ゆゑ桟といふ井幹の層構とをなし
能楹桷乃柔然あるなり加之切字の
慮なるなり十六摩多乃悪暴ふいなく諸字大
荘厳の功と掃しなり十二点畫乃楷書に毋なる
なるなり切字なる誹諧なるいなく句荘厳乃理
あり又俳徒の狂ふ乗法世之詩以為楽欲所ん
通情和門切ゆゑあるも完なるいふ授なるとせ
さるべしなるなるなる切と去声ふなるべしゆゑに歌を文
なるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる
字の法あり文り助語なる式あるも両字相摩

〻〻声韻とかるる乃爾にちらし侍へ〻やて声句とせるる
とい韵続ふいふ芳弓の二字お麿〻して其の字と生ぜるるゐ
と声韵とかるるといふりていふいの句中よりあひ〻〻あ字お麿け
の理をなれよ例〻りとらへ〻〻もあ〻〻へいまさ〻〻といまさ〻こと
〻〻むまりといふ〻〻〻〻いて多神妙至神とし
いるに書の法とうり東ひ〻く乃家の〻〻ま法つるありさまふ
侍て〻るい音〻〻シの字よの変動もるなる〻〻〻〻いまさ〻こと
くといて一句て〻〻〻〻あるるやうるれと旨
いひ〻ふ〻〻あ〻お麿〻して句の声句と嫩〻〻〻〻〻れ
芳弓の切い宮る迦の字毋お麿〻〻〻声句〻〻〻〻といまさ〻〻
の連帥いシの一字お〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
いる〻〻〻明眼の人い知〻〻れと知〻よの誹諧ふ〻〻〻
人の〻〻〻文義毋釈て〻とやそうとむ
に和ふ切て不〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻京極黄門
〻乃〻紀〻〻迦い知迦誹〻もに打〻れと〻〻〻〻
ふの某田おいく〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

山の名もたなびかせり霧の海　立圃
遠帆ちりそめのこゝ菊の富　雑水
やれとそもそのいそえなんりとひ餅　任口
みつ〳〵ゑがりて寒〳〵ちいさ葉より　孤地　大阪
大和もかゝるそもいつ〳〵物のより　江戸帆亭　浦之
みつ女ゑれ逆縁やりとうゝ色一　雑水
咲梅のうゝとめゝゝゝゝゝもの　玄札
色ど　一夏小百三年をとり乃ゝ　馬一
ぞ　小山乃草うりいさをかまつけ　立圃
さを　庵ゝゝさをかゝ庵ゝかいむゝ山　同
さをれ

山ゝゝかゝ麦いゝゝくと春の夜　細川寓秋
ゝゝか　家ゝゝゝゝゝゝ世の波ゝゝ鶯のゝゝ　必自
やれ　色ゝゝみゝゝゝゝゝゝ花ゝ富　貞徳
う　鶯乃むゝゝめゝゝゝゝゝ荒木田　吉武
や　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　梅翠
ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　貞徳
ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　馬一
ゝハ　花をゝゝぬ人ゝ人ゝゝゝ　雑水
やハ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　浦之
ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　貞徳
ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いづ
いづく
いふ
いさ
いづこ
いゐ
いそ
いよ
いで
いさご

波月てふ名はいつまのおもかげに
富士垣籠やいつくを雪けなれ川
すくにへうつるふほうこそ
ふかきをいさしやのくるのいろ
世の中いつとてうつ柳やうさ
花ゆゑ咲きいつうんさて
くさくけくくいてて侯て
聴役の立ちひいちくもくれん
夜の夜いかやくせの月のうち
本乃母とうらひうちくれの花のうん

立圃
廿
糸立
昌元
春望
立圃
同
春友

うん
ゐ
ぬ
下知
を
かよ
き
よ
へ
そ

あくはのあうん八千世とひとよ酒盛之
吉野うみさて京らしやさて 孜也
花いかやうもうにうさりぬ雪氷 宣

名月うつ面とうれてんつ
くをふかうよ名い来代の秋乃月 立一
おつとうえい数せうれ廉ゐ竹 立圃
板とひせよ花ゐる里のかうえ 家利
つちのれいうらいえんうれ 白云
八雪乃澤とふかせて花ゆん面 立圃

せ

くせくいのちしたかひのこと　法眼秀孝

いやめずらしきこと　宗瓶

け

一句乃ト知（イツク ケチ）

やあ志ろ〳〵く花ふ對〳〵徳つく　雑舟

いひくへ切（キル）

ゑとおいしきのかうかる廉の声（カド コエ）　貞徳

とまり

春〳〵く根芋（ハル スキ コイモ）いうほとやとく　信徳

なんめう切（ナン メウキ）

人世し花や浮世（ヒト ウキヨ）とあつん　同

大まり（オホ）

あふ十と春自のこうくむたしま（ハル ヒ タヘ）　宗祇

三段切（タン キレ）

雪い今朝乃末よ鏡見る花（ユキ ケサ ニハ キ モチイ ハナ）

三字切（チ キレ）

ゝ〳〵むの何てと問へはむくけれ（ナニ ト）　立圃

二字切（チ キレ）

何とえんくも白雪と名ゆとあきもの（ナニ ユキ クロ モノ）　徳元

ラン

蘭といひくゝとと菖蒲句（カナ トムク）

雑梅乃猪ふとゝんん花ゝ（ヤリウメ サヒ ウクク）　光弘

字と一字をくゝる句

一句めく切　ふハかしら　乃をせん花むろ　英俊

中くに雲まいふる月の雪

句ふハ紙　ふけ二字とあまつみ名ゆゑと訓あり
世一字源十八字と紙乃の字紙乃の字ハ
紙のゝ字に付くいひ出るゝ　歌あり　歌ハ
佐字のかゝ　なれと文章の義を今にとうこう
事世ふ義と志ゝく機をとゝ　戀ハ連歌ていはれよ
ゝふ世の句とゝふ　戀中ゝを
述懷　かをひとのゝ　懷籠いかゝとゝふ　紙俵　むとゝひ
とゝふ　世の中のつゝ

こゝろなるものゝ　恋　かゝいろこひと訓　雪そいへ
ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　いろ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　

編流る　神体　山の峯　神名　日和戸　雲　神
泊　脈　小高衣　蒙霧　贄　山稜　帯　あをふくらく
天門　神つたえ表たる梅丸　交叉　猫ー　あけのくまくさ
井の山つゝも　舞屋　撰屋　山白石　増
そ盤　玉置樹　中絶　天原橋　八咫鏡　やくらくれ
八足　麻　都ぬさ　地蜜　神物　神美門　絵　やくのくん　石塚
供米桶　一文　橋社　橋本　八字玉言　富原
ふなくく　山盤純
ゆゆ　幸玉　鬼　山稜　富士
増　法橋　法市　法眼　お家　傷新　傷西
月輝　祖師　紅絹　富戸　唐紙傷　著嶽

神敬　神開つる　眼義　神業　礼物　葉苗
庭先　如意　指義　庭先　猪板　多純　祝殿
一文　抹香　法服　細密　六斗　和殿　増　安嶽
苔庭　苔鞠　嶽ゝる　深ち香　射香　猪鞠　江
湖　法不　晨双　撰尾　速鏡　傷鏡　八法　十法
明見　魚奥　納子　素猫　方外　古刹　指戒
市袋　常灯　而化　触化
増　祈る神　いとまの名　いひ名つけ　花むこ　む
こいり　ちるの常　ふね　ふくむ
夏ふ　かをり　ちること　ものうき　ものうり

増 三ヱの部

迷惑の部

髮 部乃名 生死 捨家 憂身 隠家 命 白
鬢 女 産れ 乞丐 世間 窄人 鈴 部裏
家を賣 拐切 美 柴の屑 苔衣 ムヒツ
持病 偽銭 寡 始 病 不便 ワヒスミ
意地 意地法 増 不幸 不敏 孤 孫屋住 継子
不幸 不敏 孤 孫仕 浅情 寒屋
貧乏人の部
貧 仕 古 貧乏 事方とん 事方とん

哀傷部

兄弟 離糸 少郎 亦 愚 涙 力 ナ 失 繋 切
長別 服の内 衰 衰 絶 自 絶

哀傷部

力 死人 棺 亡人
紀氣 墓 墓の内 死 棺 亡人
三遠 黄泉 白骨 屍 古塚 冥遠 人魂
卒 卒婦

人倫部

雲上人 殿上人 武士 侍
兵 良 警 警 殿 殿 殿 殿 殿 殿 殿 殿 殿 侍

比丘尼 尼 衰人 家州 商人 織人
琴 書 書 書 伶人 猟 翁 翁 姫 古人 伯
楽 下 郎 一る士 一る子 書 古 漁 翁 女人 子
子 主 子 我 海 獨 殺 奴 婢 蔑
臣 亭 亭 兄 島 民 婢 家 家 家
乳母 元徒 亭 近 撫 温 賊 孫 家 子
下 下 ち ち 強 強 強 強 強 強 強 強 強 強
白拍子 朋友 寵 仕 治 治 治 治 治 治 治 治 治 治

人倫部

帝 宮 郭王 女院 女院 仙洞 郭院 女房
東 皇女 つ 妻 子 家

宮 人名 入道 山姫 紀人 長老 一門 一家
亡教 [illegible] 雑式 [illegible] 仕 典薬 下戸 上戸 寄屬
祖師 橋姫 [illegible] 外科 二人 [illegible]
俗 大智 人形 百姫 [illegible] 大工 [illegible]
聾 痴 盲 代官 月と女 [illegible] 酒屋 [illegible]
[illegible] 関付 使 増 使係姫 [illegible]姫 東堂 和尚
私 一族 新兵 [illegible] 庇支 [illegible] 地頭

[illegible]乃洞

[illegible] 神楽 月待 明星 七夕 [illegible] 霊[illegible]
[illegible] 更 稲毒 [illegible] 月高 [illegible] 時人 [illegible] 変
月 強月入 明方 [illegible] [illegible] [illegible] 和明

[illegible] 燈籠 漁火 花火 [illegible]更 床 [illegible] 又
[illegible] 新 狐 [illegible] 別の[illegible] 籠 [illegible]
[illegible] 書家 [illegible] 二[illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] 紙 [illegible] 衰 [illegible] 村 [illegible] 無 [illegible]
[illegible] 増 [illegible] 大文字灯 [illegible] 人魂 [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 人形代 [illegible]
[illegible]乃洞

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] 山伏 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

脇の五の部

脇の五の習あり一ふゝ相對二ふゝ打添三ツ
いゝく遠付四ふゝ法付五ふゝ法とまりゝ宗祇
法師の云脇いゝれおもしろきあるべしきゝ
いつゝくも能くゝ句も有へし多句のゝくゝ
月をもあるべきに月をもうに付るいゝうゝ多
句をもきゝ山紅葉の色物をもへゝ名所かと
はゝ句をもきゝ又句をもとの来い山紅葉を言
しゝゝとゝきゝとゝあるとゝ誹諧おもしろいきゝと
ゝひしゝゝゝゝ紅巴法眼のいゝく多句おもい

ゝのく一簾さいやゝふ扇ゝのあへゝひゝとゝ句
ゝゝゝ長ゝくゝ多ゝ文字おく当へゝ主意
ゝをもとおく当ゝるゝすゝ人ゝせゝゝとう
や淀乃紅ゝゝゝ物ゝとゝゝくゝや

打添

名ゝゝゝ山ゝゝ多むゝ
紅水ゝゝく梅おゝゝ宵拍

對付

名ゝ声ゝゝとゝくゝゝゝゝ
外の花や垣垣や外の花

遠付

ゝ外やゝゝ形ゝゝゝの花多
ゝゝ野山の花乃ゝゝ

ころとり
法師

梅さくぬかと山里とをもふ

こゝ法乃花は人さそふ法

これの袴と能く〳〵吹味〳〵服の紙とそうゐ

ならひ　れまく〳〵習ひある服ハ

武列川城千句第四の巻

れをうけ　をとく月ハ霞く　永海

太神宮千句第一

雪ハ祝ふ　山乃松もれ　宗長

種り出れ　霞〳〵　円

厂の松し　我　をくれとる　宗頂

そういう乃俗例出ふかをとる案ハ句〳〵知る

第三乃法

第三ハ脇ふこ面くと付たをと一句ハ〳〵長ゆく

大原〳〵にさゝくをと〳〵名服り一句付れ

を又〳〵〳〵〳〵平句なをの網入くいろく次

ゆく我交をて留つて法〳〵〳〵面に留

なるハ第三ふく留とをを蕎角要句乃紙

ふり〳〵第三かをり〳〵名〳〵いひをくさ

紙要句乃ハい系〳〵第三をを〳〵　角田川と

宗紙のいく第三のすハ品〳〵似合〳〵る乃作り〳〵

の句をゆく紙ふハかを〳〵〳〵ハ〳〵〳〵ををいをを〳〵〳〵

しくそこなひたるや紙の移ふるうて紙巴法眼乃大関秀
そのかゝ一ふきへうしたるやうなる所をれつゝ
吉左にはいかゝ谷ゝさ社しにも第三のうち白への書ふ
そを太うさみした一句のうゝとけるくおやうう
あそへさうし第三こへ大臨てとまりふくゝたらも
そ七字みてゝ月抜ふいうそれしとを篇し四ふいい
ふ脇しゝ山三のやうあくいてゝへあらハ平句やく
そのよくゝとゝ
梅雪にそるまとをせ白ゝ郎　心象俗
方をしゝうゝへ乃ゝまれたん　乃まい
ゐるの声ハ外ふん陰ゝく　宗鑑師

誹諧にい
蝶ゝやちるとひとまゝ花ゝけ　蘭猶
いつゝ行うゝん　菓子欲冬
ゝとのゝ　雪ハゝ雪ゝとまぬしゝ
ゝ称字
ゝうめふあうぬ月の長雨さ　玄哉
ゐくゝ戦行ゝ乃別ゝん　昌叱
ゝへいよい
せめもゝるさいく孫生海自　湖春
ゝふゐるあ行ゝ考れてゝ入ゝん　蘭素

なかやう物さくひめく余いうそ〳〵知へし〳〵春ん
外よ習ひあるい そもそも〳〵 ふ ふく 字面 ハ
なるそもそも師伝うて人普通おいせぬうゝ
白作乃善悪 よ 義 ふ 秘 変
句作乃善悪すす 貴一てふとハん 振とうく 知て
つくめそ 変とし る句とせ せんう 色一
八色ハ物に 方とうん しるとんいるすけ乃 玉 極
なりふ人い 質強い 強 強と 耳 そとい 名 ふな
ふし方もうくいうん とそもんとそ人 習
そのう毎 質強の 耳 ふかるるや 他 質 強

とんはこの色に もせん人 変 いく 此 ふん
るい調ふるる四 琴 琵琶の 弦 ゆるひるそ
教とも 其 度 ゆくいかの りう 実と 関 すありた
度りう又 沼 乃 月 初 ふ 和 冥 そ人 ふ あ した
うんうんふ長せん人 人 習 色 さうも あ りいて
かのたひを 吸 りう 宮 ヒ 少 質 強 学 せん人 人
そ不 楽 なりせいふ そ 仏 色 の 弦 いつ 色 の 宮 と
して学 そ そ なん 言 乃 ふひて せん
とハうく 色 楽 ふそのあ 仏 嫁 せん 学 ゆへるる
うんうんの 行 うそ も そう ん人いそ そふも 学

[illegible]道ふちやん人いあるてうみるる
へしもこれをもんをのゝ流石にうめしんよはれ
ゐ也やく歌の行くゝ知ることゝ人をゐみをき
くゐゝ寸位うこいふ新をのもんゐる物なもと
新こゝ行よう新をもつゝ書ゐりをやとゝろそれは
こゝもこゝ新ゐ同しこれとんゐくこゝんと黒ゐは
こゝもとゐくこゝ歌いて捨ゐる新ゐこゝ詞ふうり
こゝもんとつくゐゐしいてゐこゝ詞ゐ新しゐこゝ
詞もなこゝ見つけゝふくゝ若無いあるこゝとゝこゝいこ
れゐこゝ歌ゐとゐこゝ番いゐこゝよ記しつゝいこゝふ略

しゝ代こゝ又誹諧ふおゐくゝ秘義のゝあり帆亭徳元
の教訓にいこゝく俗語こゝ詞ゐこゝ新ゐこゝ
新ゐこゝる詞いいこゝ張合いゐこゝ方へこゝ新ゐこゝいやてんこゝ
非こゝもおちゐこゝこゝ新ゐこゝれぬ月ゐ面ゐこゝ
こゝ新ゐこゝこゝこゝのゝこゝかゝ新こゝ詞いこゝ
に誹諧ゐ和歌の一折こゝ道ふこゝれゐ義いゐ
こゝまゐこゝ歌ゐ乃句に新こゝ新ゐこゝ新ゐ
詞ふありこゝ紙こゝ別しゝこゝこゝ新こゝ
篇中こゝ懐紙と出してこゝみふこゝ尾篇こゝ方ふ
新詞ハこゝんこゝこゝ人ハ歌ハ新ハ誹諧ハ

狂歌に長いふ狂歌とうたる當世えらる新意仮
の花乃狂言なといなのたりあらん世さうひとくく
実あるへきを狂歌無くさいらいを一句の仕立やう狂歌
上の文字下の文字とうみへかへくる
句と祈り待つとの川うつ句うもうく浸脳もある
色うしたたへ富山無の依とい言と同うう
ふく山富則与来と号ふ待へ言トふとう待る
色し又一ふよ句作と為書ふと手句ものみ待へ
うつうつうくえいらいめうたひとえ真面老人をうう
ふい山湾の宗鑑なるの

かしう陸し幽霊ふよ居へくた
みやこ乃うつけいふ結へん
立なへへつ言葉を雅波る
芦毛の月ようけし せうあん
なをいえれし撰れとへふもやきへん咤とつき為と
いふ句よ合点ありして板面句當色ふ文書をへく
恨へつるとふ句風えへ記へく履歴の蔵と
なし無花法へへの宗鑑の犬鑑坡う
ふうくしくをなし かるとうう
新の新の死ぬる波ゆを屁とへく

といふ句ありてこれを奥徳判の句ふいふ挑灯なれ
やこれ父母に孝あるこれを傷まんいふよ
及んで仏道をも不孝いまゝ
なくても人倫を弁ずし者しらぬ人ある撰まんふ
とくらなとくくくくさや祝いつやつまこのを俳
諧もこれ人の義乃こにぬるに人えきまい乃わまれ
ることくも論なれと知べし人の歌れと物こいけるよう
を分まきに家歌ふいくく笑くくくこれと
なしとんあるい人のふくいあるもしらくふい
なるこのふくくくの味ふくい涙乃ふさ

くりとはくくくいいせぬものういおくりなべしとくおよて
雪月花い亦道こいふ乃命ふいは見をとりくあ
こふんと弟一とんしし前句へいふ付ても花はをし
ふくこれ月いんとこなるこい姿くあるくくこれ居
の句ハ恋花をこふくしこ父子の句ハ孝とこつくと
しく不恋ふ孝の句とくくこれ恋の句ハ情とみよ
人ハ自もるとても我人と見る句ふこれこくこう恋よ
神法ありり九ふ三ヨうてるこすり述懐旅夢なるこれく
ありちくくあ句ふうてて味こ
の句にくこの句ハ
いくめくくこくくくく

中れうをつゝ
ゑてふはとゝ人ゝ
を張くなり紆うれ乃夕ゝ紆
うれとしる紙の浮れ日ふそひく
これ　ゑふく絹とうけく付てゝ日ふそひくをゝく
やり紆と交くゝ文ゝ
あしつく蒙の五三乃日ふそひく張く紆蒙の涙ふ
うをとをいうふくゝ中さハ
あうぬ　文　婦の中乃ヨうれ　孫
いやふゝの紆衣　ふけ中く結の声

コレ　ウタ　コトハ　ホンカ　ツケ　モミチ　ナリユクワ　ナミタ　フウ　フ　チ　ミヤコ　カナ　ヨ

コレ　ツヨヒ　トリ　ウタ　ウケ
ゝ結蒙ふ　ふけ　ふ　ふ　ふ

偽りうけてふん[illegible]寄ハ見そよかゝく

世ふをもて又くゝ紅葉の有りまゝ

いかとの夜乃あるゝしふ せす

ゝに変くゝありまゝいかやうけく詞をつ紅葉白く

きせてふハ

ほくくハうれゝ髪よゝろよ

合点しゝとゝてくふとる封し文

これハゝしゝかくゝいひもく真あり

物偽乃ゝろとゝ

世れちゝり地ふゝ鶯とゝ[illegible]ん

ぬ[illegible]に髪乃ま紅葉びの月

是ハ伊勢ものかゝうにゆゝるゝてゝひゝける人のゝゝも

井のゝをふいゝゝ探ひゝるをかゝふに嫁よゝれハ男も

女をんちゝりゝくゝありゝれハ却とこハこの女とゝそゝえゝ

とゝをゝふ女ハこのれとゝとゝひておや乃あハゝ色と

ゝゝくゝなんゝりゝるとゝ一篇の仏とゝ[illegible]

物ゝゝの詞をゝゝ

清士乃ゝゝくゝ史乃ゝゝゝゝゝゝ

たゝことハゝめゝくゝやとゝて屋にく

是ハつゝくゝまに又ゝゝ却ゝゝゝゝゝひゝつゝゝとゝゝ

ゆ〜つ〜ふかきを元とく仕てるく
歌乃うら紙をもて
俤勇ましうに金山乃ふち
姫沢やせにうつろう行家屋敷
これ見いあるとの川ふちにもあるめこういえもせにうりゆく
ものふをありうるといふうら紙をもて
歌の河とやるふ
さむさやと社変の内ふみをもて
いまいるふへき陸奥うゝみ
これハなふを使ふさくやこのくふしめこうりいきとて

るを通とさくやこの歌とうるあるとれり
故るものうらを元
惣外とをくかつきにうり
乃ふ遊しし山より志ろう仕て
これハ浸の言紀威夫人とてうあひの歌り呂太后の
後に一乃太子ありうれるを通と捨く二の太子
ふ踐祚の〜紀有しい陸元太后とんとあく
せ〜てまつり高山といふ赤ふ引こうり居くうる紀
ハ君せとも出さう〜東園公字ハ夏慶公角里先人
生揚里季なゝいふ四人の賢人と君く一の太子

ホサ　ケ　ヒ　ヒ　ヒ

いつちハ　西と姫　早晩　二つなるふあそ　何と　二句去へし　如何　はなつるものとまり百約ホ一
まりく　全二つ句の中　に来くと　二つ去へし　幾　なふあそいつてホス　付句えうきく　幾日　日ホ　月ホ　日ホ二句
なり　兵の月日乃　字ふきく　いふいく　三句　去へ　偽り　誠　二句去へ　と者ふ　ふ　生し
一元二句の内と　おとる也へし　生紀　ホ字　二句去へ　生紀　二句と産と　去へ　にうまる　も二句去
衣裳乃色の　花木　ふへ　なし　編笠　ふ地　ひろ　三つの　漁火　えうも　弟ふ　ホ　七句去
なる　編笠　内なり　秋なり　姫　舟ハ　海人ハ　付句　色の字　付句姫　犬　三つ兵　戌　弟紙　反なり
いとさし　弟紙　反なり　ふる月　ふ　弟紙　ふ　ふ　ふ

あろきあけ　やのなとはこ二句　入日　一つタ日　一つタ日ほそむもをひく一つ但明の字

ろ　櫓　居ゑくゐ　けと　蹴沢ふ　をと　の姫　絃　めをうこのらう居　ゑくゐ　絃ちくゐ

うとい打をうゑし又絃居といひく分の雲生なとふこそりみる六因了

分くゐもうこうこれきくゐ系絃といひくこものまそのうにしこうこも

こここうこれ但こ　論　一つ編義ハ此内なるしあるこをひ二句　六　六人ハ人偏あり

こるこ云ふ二句　編倩魯編経編乃内ふ今一つ長　宗後孫写新孫

のうこのうこ見ここ　六歌ハ人偏よあり古歌月　孫　おこの孫　三句ちこ

こうこうくこ　こ人の六さい句をうこうこ　孫　伊を知徳ふろうさうのうへの

孫青　ひとこいなこ雨と姫　増　孫絃　うあとまうるいこれあり　六絃

とい句ふここうこ　ろくち　ろくちさうこ系　絃くこ七月

のこうる　寿せらる　あきけ　ろくち　廿四句あり

衣うう　寿いあきけこと後　六地義系　ろくち

恵橋　ろくちこうこうこ　ろくち　ろくち　ろくち　ろくち　ろくち　ろくち

ろくち　ろくち

正花 花の義よ 梅桜抽丹等本等ふなるのちらは面ときらふ 花乃
うり つねあるを なるのちらしふ白い二白去うり
ちるふ 花の落ることをいふ白い二白去うり 花の雪吹 去うり
月うけの落るハ付くもちらし 花乃
祈うり 抽ふ 花乃 正花うり なり 抽ふ二白し同じ 花の
いへうへ抽 花やう 正花 花くし 正花うり 抽ふ二白去
みこ二白去 花九 花の
ふ三白 花の
去 正花と去し衣 花の
秘 正花と去し衣 花の
ふあり 花乃宿 居所 花の
ひ 正花うへ抽 花乃躍 正花と去うり 花の男子 正花
ふ 正花うへ抽 花乃 正花と去うへ 花籠 正花
衣部よりう 姫 花ハ三白去 花
皿 去と二花うり 花野 正花よりあれ 花園 正花と去と
只義と抽ふ 萩と去ふ白と姫

ふり抽ふ二白去 花の字とへハ二白去 花のしふ
字活の花ふ又ハ山の五の花 花車 正花と
花軍 正花と 花山 咲とうあるとハ正花ふ 花
香 紅の香ふの香 花の白 とうふ白に紅の香 花乃
の字に西と姫 花乃
ふり 偽花のうに花ひとも 正花
正花とうふ去 花よ芳野 付白去ふ 花
子の狩衣 人偏うり 正花 花田 正花ふ 花
ふうへ抽ふ二白去 花蠟 花堺 うり 正花 辭花 正花
うへ抽ふ 花
うへ抽ふ 花紙 花の字ふ 花の白ふ 花
二白去 花皮 花の字ふ 花入 花羅 正花と去 花美
壹 正花と去 花と雑 抽 花丁子 正花
ふ 正花と雑 抽 花報 正花と雑 抽
ふ去 正花と去 花入 花
茶の花香 正花うり 雑 抽ふ 花代 正花

なりたるを　**焼の花**（トモシビ）　西花なり　秋なり　拙句

うへ和ふ　（ハナ）

花鰹（カツホ）　西花なり　なまよりあれそとうり　拙句よりあれ

絵小有花（エ　アル　ハナ）　西花なり　拙句ふあり

花形（ハナカタ）　西花を雑なり

花形（ハナカタ）　西花を雑なり

うへ和ふあり

の句ふ仕立　西花よりあり雑

花乃宴（ハナ　エン）　西花を雑なり

うへそのなり

花と隆れ（ハナ　フラ）　西雑の花とやれば西花なり春なり　秋なり

花の字（ハナ　チ）　西なり

うへ和ふの名

西を雑なり行

ふなり八二句

菓子と和菓（カシ　モミチ）　二句

なり

春の宮（ハル　ミヤ）　春なりそうなるのれるなり

檜（ヒノキ）　六つ巳一つ名あり　一つ

居あり三句　三句なるふあるふ家

のようにあるをそなひ

いひなる句雑なり

ふ句ふはなるへしとうや立圃

ハ付句

きふ

和漬（ツケ）　ふ雑なり　絵も同なり

なるとえるふ雑

花火（ハナビ）　西花なり　秋なり　拙句ふ

花（ハナ）　西花なり雑

花（ハナ）　西花なり雑

花（ハナ）　西花なり

花（ハナ）　西花なり

花（ハナ）　西花なり

秋なり一句一句のあく

ひひくく今ふなり

和名特（ハツトリカブト）　秋也

和歌（ハツカ）　秋なり秋なり

和沙（ハツシヤ）　秋なり秋なり

和嵐（ハツアラシ）　秋なり七八月のなり

和門（ハツカド）　秋なり

原（ハラ）　とりなり三句なり　ふなり形三句なりとい

みりとのりなりなりのりなへりなれも句

蓮（ハチス）　ある句なり　なる三句のそのくなりなる色

て来んけとう雑なりとう又一つ

ふなるのなる人のなるなる

なりのりなれなれなりなる

なるなるなるなるなる

和（ハラ）　二つ巳一つなるなるなるなる

郭公而と姫川なるなる

なるなるなるなるなる

なるなるなるなるなる

檜（ヒノキ）　なるなるなるなる

なるなるなるなる

檜居（ヒノキイ）　居なるなる

なるなるなるなる

和（ハラ）　なるなるなる

なるなるなるなる

蓮（ハルカ）　なるなるなる

なるなるなるなる

檜山（ヒノキヤマ）　ふなるなるなる

なるなるなるなる

なるなるなるなる

和（ハラ）　なるなるなる

なるなるなるなる

蓮（ハルカ）　なるなるなる

なるなるなるなる

和と姫（ハツ　ヒメ）　巳なるなるなる

なるなるなるなる

膳（ハツ）　なるなるなる

なるなるなるなる

謀（ハカリコト）　二つなるなるなる

なるなるなるなる

なるなるなるなる

だうと　七句なるなるなるなる

なるなるなるなる

なるや　なるなるなる

なるなるなるなる

はるとくるくるのつよ乃字のうり二白ちく

涙 呂二名ふ字よ二つ其字の相ふいなをまいるる色にあるる名のそふくは風祢に二白を吹の字に二白ねの字のるる而と始へ一 **羽の字** 二つ名ねるなしの生るいかるぬねの字 **初名** 寅の刻より明るもの春分なく **花** 月

いかに又そへ一

名瑞 むもふはる文ありまる

萩乃戸 萩原 いつれも秋なく **涙萩** 秋名色なり **花** 春

相ふかく

なるり

ちるを秋ありそそりも秋ありなる

初雪 初雪見糸 **花** 春

と清 名ちるを結

かるの相ふかくそく

のるふ書白く

ありいふ相ふ有

なるこ色花ありう

人初まあれ

増

花の縁 春色色花ありにあれ雅ありなり **花** 春

笠の上れ 笑 あるり又春ありなり雅に依白祢雅又春 **鮮乃龍** 春

なるこ付ふいるふ日そこ

花に 春そふ木のそもの山ふ

なるる付ふいるふ日そこ

花の

法 ふ名ふのるるる

袴 くさの字たくさん 衣部にあり

針 ものをぬひとりつくるもの 立部にあり

法師 坐そこなひ人 傷あり 二白去

蛤貝 ちりかたいやうの白ていそ

に

屋 三つ打とう色へし 屋の字所乃は米かと今二つ見へし 屋の字又屋ふあり

砌より載埒の内桐つかの面と振 屋乃 二白去

築山 ふかい石と 屋のふとと面と振一九三白去昌琢今物より 二白去 場

屋のふとと面と振一九三白去昌琢今物より 二白去 場

屋火 紙に 屋のふとと面と振一九三白去昌琢今物より 二白去 場

法のふハ いくさ ふかいなとい屋ふあり

絲のふハ れい白の 屋とこ 屋こと 屋 屋 二白の白し

三つ見一つ 屋る一くさいらんかと一つ 贄貝 生部ふ二白去 白神ふ

神紙ふも 屋へし 屋 入 屋 二白の四は四る

くの事もおへし

ふかの海 名所よ 二白去 ふかの人よ 香七白去 仙色物の 七白去

とりまふ ふかの海 名所よ 二白去 ふかの人よ 香七白去 仙色物の

屋 屋 屋

保

布袋　布袋

[illegible]

牡丹

櫓

佛の別　二月十四日

増

星

洞

堀

[illegible]

佛

[illegible]

[illegible]

布袋

[illegible]

別布化縁の化人とあり家法

[illegible]

[illegible]

法眼

[illegible]

炎

狂の字

[illegible]

子一つ　母衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下ヘ多 一つ七つ多に 下ヘ多に 七百さ多 新屋 屋や屋やさ
二つえり 鶏冠 こてに さ
まへし 結さ多 久やなとの
来不安 多ふよ 朱冊りこ 多 多ふ 石彩 ふ
いつまも二百 いつまも 多と く 三百 多く 無常 一つちき
多ふ 一つ多る 二つ声ふ 多く 多ふ 多ふ 一つ
多ふ 一つ多る 多ふ 多ふ 多ふ
の面ふあり 多ふ 可 多く 多ふ の 幣 一つ多き二つ 論に 面と 面と 多ふ
おとる多へし 多ふ 可 多く 多ふ の 幣 一つ多き二つ 論に 面と 面と 多ふ
日多 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ
多り 多て 一つ多の 多ふ 多ふ 多ふ
増 迦に 多ふ 多ふ
とい く 多白 多 多合 格あ 人に 多る
と多ふ とと多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ
に多 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ
た の 多 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ
多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ
ひさ多ひ多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ 多ふ

敵 あかと出ルい多く多ぬく
多ふ多り あかふ入て 多ふ多り
と 虎 一つ多 多ふ多 多ふ多 多ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふ 同ふ二百ちあり 紙 年いれもふ

増 年のえ

と 年に

ち 塵

茶 碗

ちと

ちと

ちと

坂二つの内くらをこゆるくらゐ

り

律の字 秋 竜膽 秋あり りんだうの花 ちりの字 二つ二色 とりの

のつまといふ 鶴 鶴 とつくまつる白 鶴 鶴 鶴

増 男帝花 男帝花 男帝花

と

女帝花 女帝花 女帝花

鬼 鬼 鬼

傾 傾 傾

女 女 女

月 月 月

小野 小野 小野

と

と

と

小田久 小田久 小田久

小忘 小忘 小忘

と

と

と

雜 ワカ

雜 ワカ

雜 ワカ

か

戒　二つ共に手へん　仮　二つ共に手へん　假　二つ共に手へん　杜　白ハ二白さ　杜　二つ共に木へん　杜　二つ共に木へん　杜　二つ共に木へん

[illegible]

衣（コロモ）　衣部のあるに衣の字に変ずるなり　[illegible]みの細（アミ）　[illegible]

霧（カスミ）の海（ウミ）　[illegible]

霧（カスミ）の洞（ホラ）　[illegible]

霧（カスミ）小雪とひらひらもまがふかとあやまりてなれおとしけあふるれ方ことに

霧（カスミ）　[illegible]

陰（カケ）　うちつとと嫉妬ふかけ本ケ本ケ本ケ

うちわ　六ちりと字ありと字ありと字あり

よるべ　よりてよりかるとも　二句　よるべ
月さえ雲とのの月よんるいさ　せうんうふ雲と

なるみ　檀　世こそり　世中をいとこと
世力るる速懐之　歌

ちとせ　世の歌　二句　ようる　二句
ようふ　一二句　ようる

寄歌　三句　よくさん　一句よくと　嫁　一句
うり　米　一句米と又一句か
こめ米と一句上

大　稀用のこと　私云貞徳の俳諧の名その中ふ
の稀用ハ是ハ
郷集の極一変の俳諧その中ふ
四筆とふ郷俳式と捉ふ序てたたの序の序ふ
色山記ともにいくそ
新なるのいえ筆和漢のこく
漢ふ御用の新ふ
御用の新ふ
伝法　檀　檀氏とくふ
えんくのふ
うくちの檀

篠　二句の外
二句色の一句
丁とのくも一句

旅の屋　旅の屋　二句の外なれども
篠の屋　篠ハ二句
篠ハ二句
篠ハ二句

篠　篠ハ二句
篠ハ二句
篠ハ二句

篠ハ二句
篠ハ二句
篠ハ二句

玉の緒　玉の緒　玉の緒
玉の緒　玉の緒
玉の緒

滝　滝ハ二句
滝ハ二句

滝　滝ハ二句
滝ハ二句

滝　滝ハ二句
滝ハ二句

田の庵　田の字　田小　田代　田沢　田よし　田ノ上　田ノ口　田ノ尾　田ノ中　田ノ原　田ノ入　田ノ内　田ノ下　田ノ口　立田小　作　作の林　作田の里　作川　作貫子

門田　田

作　作の家　作田　作間　作の林　作の家　作の家　作の家

[illegible]

竜 生類にあらざれども多くは声あれども[illegible]
多しいまだ声あれども[illegible]
[illegible]

七夕 七月七日二夜の天の[illegible]

七夕の衣 衣類[illegible]

宮 三つ内一つハ名[illegible]

谷 只二

田蓑 衣の字のみ[illegible]

[illegible]の浦 [illegible]

[illegible]根 [illegible]

[illegible]の字 [illegible]

谷の戸 [illegible]

高砂の松 [illegible]

[illegible] [illegible]

[illegible] [illegible]

[illegible]の字 [illegible]

[illegible] [illegible]

[illegible] [illegible]

**[illegible]

礼 二つらいと又ハ
れいとも
霊音 乃至ハ
ゆれ鈴子鈴川風鈴よみ
連歌師 人偏之連元ハ
連歌
療治 つかうらうの月
料
紙 紙と書きくハ杉原
人偏なり生紙よおなじ
猟師 猟師と書くハ猟師先生
色
霊照寺 人偏
なり
霊験 れいけん
霊 二つ霊ハ
りょうとも
伶人 楽人よ
おとと娘

さく
とハ
霊

(増) 連理の中 京
伶人

空 八つ
七日
うらに 久しくも弁
天の字二百
弁而
園 園ハ
らんえん

神 神乃面 ハ
二百
神の霊 ハ
二百
神の番 番
神ゆく
神と神 三百
松木 山
松人 山
崛 三
その字 字ハ
二百
嶋 三百
その字 字ハ
二百
崛 二百
存の字 一
二百
(増) そ
内よ
庚子 一つ
庚
真 三百
沙汰
つ 沙汰し 一つ
一つ
換 一つ
卒尓 一つ
そ
そ
そ

月なみの月　とハ表月也月ハ月なみの形なり天象よりおもはゝ

月沢の月　ありあけの月　うしとは月　月なみ月　月なみ月よ　なをも毎月月日ありよりなをうしに

よりなをうしにやうひの　月あり月沢乃月　月よ月あるこの月も　月日

乳ケ井くうしにうに　月日　うしうしとうしふ

星　二月ハ　月の雲月　雲　秋の河ハ天の川なり　雲ハ二月ハ雲の字に二月雲

のうしよ　月出秋　秋ぶ　うしの月　秋ハ月いりあひ

七月ハ　月の宿　雲　雲ハ月日よりむしふ

月ハ三ケ月出る夕月　雲ハとに結ぶ　月

なをうしれも出うしよりあり　月の変　人倫よりあり　月うけ　とうるおと

とあり　人倫よ　月の変　人倫　月うけ　とうるおと

月みつひとひをひく又四　月乃出ハ　白よりうしうしうしを

他ハ月さ西とうしくしたし　月の海子と海乃さ　月の海子と海乃さ

しとうしくし塩のうしよ　雲ハ月ハ月ハ雲ハ西と

うしうし月の月のひよりひ　月ハ月ハ月ハ月ハ

塩よハ七　月ハ　月ハ　月ハ　月ハ

月ハ月ハ　月ハ　月ハ

桂の花　桂の花　月の雫　月の雫　月の雫　月の雫　月の雫　月の雫

あくとりひくくも　たこ三つのうちく　椿市　椿餅　おい二百の
あかなり　蕨　蕨　蕨

みめるハ七百六 **眼** 新いまよ国人の疫 とりつよ孫名の孫る七百六へし 名代孫る

とりつよ孫の孫る一面と孫 **孫名** 生気ようようくやめるかたよ かくりくに二つ長七疫又の命へ **孫系**

ぬるふ ふたハ二百六 子日 うへ初小二百六 子日ふ松仕へうれ 孫名 孫系

松ふり 七夕へ **猫** 只一つまようひの月ふ名 今一つまこと名さを 孫へんうり 文 **根よ**

をとをくうけふとの名ふ山のうけふ岩根ふ二百六七とを **根よ** 下京新八の

ふるよ岩のりと山のうけふ山のとしてこのをとしふけ山ふうれい **根**

根 岩根 姫根よ ふのりしてこのをとしふけ山ふうれい **根**

下系ふり北二百六 下京ふ

いをひうをふ木のひ **孫宮** 形紙へ **宮者** 高く人 偏ふり **嵐** 夜ふ

名ふ木のひ面とをふ

ふりしひ **言よ** 二百六ふり **増** **念** 四 **年ふ** 述懐 **孫ふる**

孫へうれ 同面ふとをふ

孫こを 孫ふり **孫へ** 名ふ孫ふ孫ふり **孫**

らふつ 三 **孫** 二百六 孫へうれ 孫へうれ 一つ人 孫へ 孫へうれに

あへうと二百六

な **鳴子** 二つ一つい手ふふふ ふるふ

こ 花のふへこよふるけへうれ 又花のふるこ必へし 花へうれ 名ふ

田をふふると生花 二百六ふり **鳴子** 二百六をふり **名花** 名ふ

く 二百六 **かる朴** よなふるとふ 字二百六 **なく** 人のなくに鳴ふ **なりに**

なり 三つ位ふりにふくい 中れをきトに金て **詠** 三つふれにをふひふ一つ ふくめと ふいれと

ふるふふいふる月ふ月ふ月ふ月ふ **なるめに** 又ふる二百姫ふ山ふ ふをふひふふふ姫 **尚代**

ふくふふふふふふふ苗ふを ふいとふふ二百六

南ふよ ふれけく **苗ふを苗代ふも** 人のふ孫を ふ風二百六

ふふふふふふ **流** ふふふふふふ ふふふふ二百六 **なくよ**

ふふふふふふ **洞ふん露** ふふふふ ふふふふ **涙の面** ふふふふ **流**

乃洞面 ふふふふ二百六 **なみふの露** 一つ風の ふふふふ **深に** 独の月独 ふふふふ

中に点を立てる
二句まとへし　おとさり　と一つ
ゐもの二句まとへし　刷　ら
くに　七句まとへ　ゐひく　七句まとへ　ゐひく　ゐめう
ゐの字　ゐひよ　二句つまとへし　中天　一つ中よ　三句まとへ

増　縄　一つ名の　ゐん　一つ名ゐを　ら

ら　ゐ　ゐら　ゐん　ゐらん　ゐらんゐ
ゐの一字まとへと白の
ゐりふゐ　ゐ　二句まとへ　ゐらん　ゐらんゐ
ゐんゐ　ゐの　ゐらふ　ゐらんよ　ゐらん
乱後　ゐ　一つ名世の
ゐ　ゐ　ゐ　

とりつよ日よりみの
るホハ七白ちあり　駒ホ　さいせんの約
ホハ西と姙ふ　まくさ　ろの小二白ちる
約ホ七白ちあり
海く　るの約ホ　おと姙　猪子　るの約ホ
生氣ホハ西と姙ふ　る場　生氣ホ二
白ちる約
生氣ホハ二白
馬子る　人倫く生氣ホハ二白
る約ホ　おとと姙
家の八場　二業あり
いつまでもろ
家乃戸　桑ホ
多くの氣ホ
あくまく
藻　雜あり　むくの宿ハうへものく
居要いひくう一五二白あり
室　四ロ
ちれ尺寸あり　寸法くくうう
ひろのとへを出行にとるとこいんうる
室　色ホいひく尺寸の室屋ホ又ま
やうに二白ちく後ハみひろ戸ホおとくくもこへうれ室
室の中ホ
室の中ホ
室の中ホ

地しくの川しま　山ぶきよあしれ　宇のあしはうへおよこ白ちく　秋ぶの白あしろ　の白ふうとしひく　ひと二白ちく　野ぶハ　ちく　拾カル　秋ぶの白あしろ　裏拾ウラカル　秋野の白あしろ　ふれ野ぶ白へしろ　ちく　かぶ　みぶの白ちく　みぶの白長　みぶ乃ちく　ちく　木の拾ろ　ちく　かぶ　ちく　ぶ　ちく　ぶ　ちく　

[illegible]

に　ほ七　白さ　宮　宮女　ウカレメ　う　ウケトリ　一　ウス　白　一つ　ウケトリ　一　白

う　ウケトリ　二　ウケトリ　一　白

井

猪　井ノシシ　此二つ此外ハ名不分ハ此の方ハ名ふ今二つ書とうてまた

あの　居　井ル　ハ名ふ名ふ名ふ

玉柳 ふり初めの色三あり 野撞 一つ白髪とうとくなりてやゆみやうの物なし 長閑 二つうらうらとのどかなる一つ のの字 二白さくら 殘 春 殘る菓 秋九月十日よりの後 殘の猫 これも人倫 呑 一つ生れのとみく 乃字 八つ面を 車 同じく鹿分くなり 後 一つ面をもてはこ 蟲 一つ虫一白 鯉 一つひしく 除 一つ先祥一 増 杖 三つ長 暖簾

れ

老 巳一つ老の字より一つ 老 老の字 老 二白 親 子分くなり 老 二白 老 二白 親 子分くなり 老 二白 老 二白 老 二白

くさくさ又あに二つもさこへ　男　呉一つうつれのこつ　男　うちかれ
ゆとセついねうめうそうてさく　ちんとうぞあくこう　らおたれ
お男おかれ男孫こさあうつうもん　沖　二つ名　尾の上　二つ名
の内かさ又こつうえへかとこに面を蛭　およう　エ　およう
二つのあ　おのへ　尾かもとうふかへうこう　わくしゃ　ささおうて二つ
さはう　ヲノ　あり峯かふかへうこう　ヤ　あのあく本丈
奥　四つ奥ぎと色さ又一つうにさへしきちの　尾花　尾かも
ヲク　あくとうかこ四つの内く仕そちのく仕あり　ヲ　花も
三白　歌稲田　を孫も花ふ　起　表ちくぬる稲るふ　おか
さく　ウタテ　ナレ　三白さ色しく　ヲク　同ちさ二白さへし　ミ
稲ちま　とうふ田　おされ　馴深　忘さ人偏ふ　ヲ　れうく
ちなかり　ナレ　ミ　ヲク　ちうと　ヲ　ヒト
おと蛭ごとく　とうくのの名七白さ　増　四乳の人　忘かき
ちん四つ三四つご四つ仕ごふこふく二白さ　ヲチ　ヒト
み　稲ちま対　おはふ　四つ　漬　八仕らくとうこ　仕　二つあ
ヘうこん　ヲ　ヲク　ヲクル　ふひひても八つの内　ヲキセ　ヤ茶
く　鶏　呉一つくまふ鶏形くなくいう有ちな　車　いひうくく
に今つうちくおの名ふ乃名ふうて二つもさ　クルマ　ヒラくく車や
とうも　男のあに蛭さのねな桑の香車　及車　乗車　小車の美
仕内く　車　クルマ　車えひまてさ　車男のあく仕ねさてと蛭へし

花　ふくくえのうれ虎ちうる花
又まうくさうや色かの花ふ一ちえ二白
一つれうさうの紙人の月のうさる
人のんえふくふかしに又一つるにし
雲　クモ　三白ちうんとうるふにしても三白ちうろし
雲　クモ　三白ちうんとうるふにしても三白ちうろし
雲　クモ　雲　クモ　雲　クモ　呉一つ月のうる
ちくはうくく　雲内乃屋　内のうるりうひ　雲　クモ　かみのりる未に
のうとうさ　ヤ　ちわふ二白さへし　雲　クモ　ちうにくん海ふうと
てんさ人のうく人偏く　雲のう人　ヒト　けふとけてくうくに
ちひきうのに二白さ　雲　クモ　ねうちくの　雲　クモ　井
蛭ふ仕大内乃うとつふ　ちくはくくくくく　雲　クモ　ちくくく
白柳ふくくくくくく　人偏ふ　ヒト　ちくくくくくく
ちのふも三白さ　人偏ふ内へうに　草　クサ　草川　クサカリ　草　クサ
人偏ふ内へうに　草乃蕎　イホ　草　クサ　草川　クサカリ　草　クサ
草乃蕎　イホ　草ちくさおよ呉一つうに述情ふに　草　クサ　草川　クサカリ　草　クサ
草　クサ　草　クサ　草　クサ　草　クサ　草　クサ
草　クサ　草　クサ　草　クサ　草　クサ　草　クサ
草　クサ　草　クサ　草　クサ　草　クサ　草　クサ

野毛のみくさ二百去 蕊 ※村とも出ゆへ ※ ※ ※ 蕊く
あるあるあるのちくさあを二百去 ※村の字に二百去 ※ ※ ※
さ 茱 面くさも ※ ※に三 つまく ※ ※ ※ ※
白去長 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
くさくさ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
字に二白去 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
三くさ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

[illegible]

教に 蘭はなるに[illegible]

矢 [illegible]

[illegible]

柳 [illegible]

柳のみ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

所 居所 所領 居所 鞠 一つまり 徒 八つ内一つ
まりつき 二つまり 家人 一つまりと 又 三つ
ゆること 九 四つまりと 子 一つまりと 習 三つ

け

けうん 二つうん月と一つ 今 きのふあに二つ去りの
朝 今つ書似者かいて今に二つ去りうん月ホ二つ去
あさといふ字ふにた白去り 今朝 夜
白雲 けうり 白雲 けうり 相 相行ホのうりに内の
煙 けうり 相 相行ホのうりに内の
寄すく うりて 相 けうり 似也地の流い
寄すく うりて 寄寄 毛とうる
奪る 奪られる 獣 獣とく 三つ
久つ二 けり 西とうる
白とうる 七つまりとうりにいこつ
うんとうのるに二つまり

ふ

ふるさと 古郷 長い名ホよ一つ旅よ一つ 古 名ホ一つまりく八ふる
ふるにいひくも三つの四 旅ふ一つまりくも古
旅ふて出て 梅ふ法や 書ふ法さて いれの古つふを
旅九之 京ホと形 月乃形紙の
旅ふて 皇居の宮郎 居ホ二つ里に三つまり 古
の字 出られに西と蝶 書ふ去賀 雑波ホ
字 出られに西と蝶 居ホ二つ里に三つまり 古
ふること 下知の河 二つ けさ知 ふること 巻 巻ホ二つ
西八つふ
のふさと

文 文 文

風呂 風二百七 風流 風水二百七 菁 あかさこけこうさ
やまはたまかひひつく
場所 風俗 風水も吹水も
二百七百

増 歩 人ひとり人を歩と始めは
将軍の駄乃歩今ハ
人と書ふうそうて 技倍方 一ツ米
人編ふかれ 糞 二百あるとし
冨士乃雪 雪あり消るとしかつて家作り
貞徳級くのとく紙しまを雪に
に夏と極め三月十月消去る雪
三月十月消去る雪布を家利とかとし男八粒宗
紙宗長はとりく後の遠ひと
を左を佐しとを
海くの家もとうとかれい彩
男子の腐ふみ出くまいちつ
を紙しるとしより
の代ふ
北佐
紙と

増 歩 人ひとり人を歩と始めは
将軍の駄乃歩今ハ
人と書ふうそうて 技倍方 一ツ米
人編ふかれ 糞 二百あるとし
冨士乃雪 雪あり消るとしかつて家作り
貞徳級くのとく紙しまを雪に
に夏と極め三月十月消去る雪
三月十月消去る雪布を家利とかとし男八粒宗
紙宗長はとりく後の遠ひと
を左を佐しとを
海くの家もとうとかれい彩
男子の腐ふみ出くまいちつ
を紙しるとしより
の代ふ
北佐
紙と

元禄の小式一番の百あるうり天ふ
撰も伝とされ中の一ツ
陸仁物と
角ひとそ紙
ねさく
書の紙と
書の紙と

元禄の小式一番の百あるうり天ふ
撰も伝とされ中の一ツ
陸仁物と
角ひとそ紙
ねさく
書の紙と

ま 赤指 ふ二ツ赤しの赤と二ツ紙赤古集
西と塩すの百に二百ちかの百に二百ちこ
本とうの百をことうの百二
百ち風俗ハ二百ちあり

本とうの百をことうの百二
百ち風俗ハ二百ちあり

ちこ
ちこ
ちこ

乃道（ミチ）

詞（コトバ）

氷（コヨリ）

氷（コヨリ）

氷（コヨリ

子（コ）

子に　子と　子乃字（チ）　子持（コモチ）　子焼（コタツ）　子と　こて

増　壱（コヘ）

縁（コニシ）　縁（コン）　えひと　夷（エビス）

増　えひろめの衣（キヌ）　えひろめの月（ツキ）

て　寺（テラ）　えとりえの月（ツキ）

増　えひろめの衣（キヌ）　えひろめの月（ツキ）

て　寺（テラ）　えとりえの月（ツキ）

えひろめの衣（キヌ）　えとりえ

[illegible]

手に 紙二百文 上質紙書 [illegible]

[illegible] 七百文

てっぽう 一文より一文まで 鉄炮 [illegible]

月日のるに一つ世を [illegible] 調布 [illegible]

[illegible] 天竺 [illegible]

[illegible] 天井

あさりつけ　名は今こそ　逢坂　三つ但星合ハけみてるべし　星照　秋をとりて三つるべし　有明に
ゆうと明　これおのれなりはしらてくのありあけよりくもこの内ありあけ　あり明　あるい名を
るこの字二百去明ハ二百去　月あるこの月に二百日と星に二百去明ハ分へ　明るあけすつ　あけぬ　名をにあれは名ゆ夕ゆ名に
てに木はなにあれは名ゆ名にあれは名ゆ名に　明るあけすつ　あけぬ　名をにあれは名ゆ夕ゆ名に
とえりも名ゆ名に　明るあけすつ　あけぬ　二百去あけもそてにありしもと
はるに二百はるとはるよりこそふ　明る　名はゆ夕ゆ名にもあるこそ　あくるに曙　いれも名
はるよりこそふ　明る　名と名と夕とけゆ名に二百去　あくるに曙　いれも名
はるに　あくと二百去　名　名はゆ名にもあるこそ　あくるに曙　いれも名
とりひく名あけるこにくく名にくくなるる名ゆ名に名はゆ名に　あくるに曙　いれも名
二百去明の字に二百他はゆ名と名ゆ名に　あくるに曙　いれも名
あけれとクヌ字にこりしるる名　あくるに曙　いれも名
毎名ゆ名に　声の字に名ゆ名に　あくるに曙　いれも名
けさ二つ明且名ゆ名の内ゆ一つ　あくるに曙　いれも名
おを始ゆ名　他あさとふ河名る去　天の字　天ゆ名にもあるこそ

又二つ明ゆ名ゆ名　天に　あさの川名ゆ名ふ　あまの川名ゆ名ふ　あまの川名ゆ名ふ
あめあまに名ゆ名　天ゆ名のうちあり　あまの川名ゆ名ふ　あまの川名ゆ名ふ
ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名　あとひ名ゆ名　あとひ名ゆ名　あとひ名ゆ名　あとひ名ゆ名
ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名　天の字

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つゝみ茅の海ちゝはゝ　あさうの　秋の字点の字あり　海士
なゝくいのゝくゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　さゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

しゝ白髮 拯（アツヒ） 二つあるふ二つ拯ム又一つハ二ツ白髮へし

増 化（アダ）いひまく 書子（アンス） 一つ家なし家の人の名 懶（アツム） 二つ 集（アツメル） 三つ 綠毒（アツミ）

おを拯（アヤナキ） あるゝ毒 一つ人をあ又一つ人をあ面を拯へし

二つ 蓋（アヤナキ） 一つ人をよ 人をあ

さ

又月毒（サミタレ） 一つさつきの毒とをさみされの毒やとり一つ柚の毒さつ

の内に一つ位又月毒三つ上の毒下の毒ホ毒ってるも毒

猿（サル） 猿つまり猿ゝ猿と又一つ猿えんゝとり

猿九毒（サル） 猿九毒申柴 猿さるまかこ猿ゝとりホ毒ゝ猿ゝ

猿毒（サヒシキ） 二つおさひ祢さひの

乃に毒ゝ猿ゝ猿ゝ三つ

さ

刺（サ） 祢さひ毒ゝ 寂寞（サヒシキ） とらゝ毒ゝ猿ゝ猿ゝとらゝ猿三

毒ゝ位つれゝ一つ位ゝ毒ゝ毒ゝ毒又毒ゝ位猿ゝ毒ゝ位ゝ

毒ゝ毒ゝ毒ゝとって出ゝ猿ゝ位ゝ猿ゝ猿ゝ位ゝ猿ゝ猿ゝ

とゝや 寂寞（サヒシキ） おさひ祢さひ毒ゝ 櫻（サクラ） 位一つ毒ゝ櫻ゝ位ゝ

一つ位ゝ毒ゝ猿ゝ猿ゝ猿

ちうさの字に二百五十　蚕と篠　七百五十も同じ和こしらへ　ケムのこと
竹さて竹かく竹ふいつを　篠と書く竹ふいつを　三百五十　仮名
ちくみよみ百五十　さて　志のもの　もの志のや　もくうけあり
て而よ一つ志のとさて　の百七百五十　拙和の歌　星形
さて　蚕よ二百五十志のもの　竹ふにもこの拙　ナ　人和ふ歌　クサキ
又宗文和法ふて　百五十　クラ　彩紙　衣々　サイハラ　偽る樂　トウ　唐紙の文
それくの事を拙く　ふ事稱　ふ　と　と　と

二百さゝ　ひの字さゝもに　一名二百ゑに

き

蟋　一つ声に一つ実名よ一つ　長一つきく日と一つ　二百さゝ　さゝの字　蟋蟀　秋よ　二百さゝ　蟋蟀　長一つ　二百さゝ　蟋蟀　長一つ　二百さゝ　蟋蟀　長一つ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆふ　夕ばえに付たる白雪の花　夕ばえ　夕はえ　夕ばえ　夕ばえ　夕ばえ　夕ばえ　夕ばえ　夕ばえ

矢　うへ　はく　ひく　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる

実の字あり　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる　ゆる

夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ　夕はえ

古非就遊毋字元年名須孔栫遊布麻毋字
ゆ　名神　毒目の神伊吉の神伊勢の神出雲の神の就名の名
名所と〻　二百　名所の春日　春日　名所
敏　秋　名所の九月　拾　春日　二百
名人の名所の月　春日　二百
の就　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく

宮 みとりの河ゝとゝこのゝ
そゝやの山ホヽとゝきす
月ゝ
ゝ
ゝ

見馴ぬる　こゝろぬ浦のゝ波ぬ袖ぬ白仰ゆゝて旅ゝ
見つ　又ゝこゝろこゝろこゝろ
見る　見るの位
多文字と同じ　道　多字後ぬ二百去
二百　又とゝとみ　見るに　ゝゝゝみぬ二百去
ちゝみ　ゝゝのゝみゝよ　二百去　みゝみゝよ
このゝゝ　数ゝゝゝゝゝゝゝゝ　分ゝゝゝ　連歌よ
耳　ゝゝゝゝ　二百去　増　皆　山森よ　みる
のさえつり　乃　西と橋　山森よ
川　二百去　河　秋ぬ二つみゝ二つ和河ぬ月の河ぬ
ゝゝゝゝの河ぬ去れの多ゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝ内三百去

ゝゝの字ぬて　塩　ゝゝ長一つ　塩　ゝゝ長一つ　塩
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　

帽子（ウラミワト）

志のふ

志のすゝき

志のつゝじ

志の草

志の車（クルマ）

志の字（モチ）

志の蛍

志の蛍（カ）

志の蛍（カ）

志の蛍（カ）

月花の事 月花の事は同じ事なり 月は春の初
又いにしへは述懐の句なれば 花は春の
作なり 花は春の句なれば 月は秋の
入なり 春の月 春の月は秋の句なり 述懐の句
春の月 春の月は秋の句なり 春の月
月 月は秋の句なり 春の月
居不成宿 又のごとの宿不孤宿池田宿ホ又人と同宿し
て 宿 宿老述懐 宿 宿 宿
人倫に筆宿 宿 宿 宿
宿 宿 宿 宿 宿
宿 宿 宿 宿 宿
宿

百

接ゑ書　牧木　その〻ちまちまちま

月影の変　月かげのい

月傾　人偏に月は月の

に二句あり

月光　月光陰　月光山

月光陰は二句あり

月光陰は月日なり

月光陰は月日星に

月光陰は月日星に

月光陰は月日星に

も

おと　面をうつくしくもよく　中が一白と下にはまりうるとこの字をつ

ミチ　ふ　呉一つ拂拂の内が一つ乃ふ一つこゝをとゝと一つ　紅

をみちの稽古内くれ竹をのこと分て白ゝ

ミチ　糸の紐乃変　赤藻　糸の字二白ちかのうの字の字の字の

せ

惜 セミ 臣二つ 姉 セキ 関 臣一つ

増 せ

せく

増 せ

せく

せ

せ

せ

[illegible]

すしき　鮨　かなもの　二百文

さしあし　さしあしハ三つの内　二百文

ひ内之雑之なれも多ひくとうかのもの　二つ屋元一つもつろ又ありやつるふの

いそく　紙　ちりあ化ル紙く紙く　二つ屋元に二百文ゆみ

居ふよ　栖　ふるかれ　の行入て三百文と

二百文　井

居　二つ屋ふよ二百文中を居を居ふを三百文もをんうと西とそ

もへし　ちて　居を一字をかのもの居ふとうか

百文　もとく　二百文　掬　三百文もくもくもくの

もてよ　二百文　身を捨る化世ともとる　みせもてくをの

おとそ　述懐　おとそ　須广　おとそ　ふけ　ふ　ふ　ふ

ふ　ふ　ふ　

に一隅と称する二隅に称する乃至
たれかも有り絲は明心居士長頭丸
の稚けれに松園立園了翁を
信〳〵万分一と誌し侍る浪華
乃好士と称と親炬や漏脱乃匿
名をも西〳〵に何かん萬ふ
みりあるに請ふ系の人交をもて

漢和和漢撮要

淹ハ詩家にして聯句を作なると連歌を立
る附表の船なるみ〳〵侍るかわよ誹諧を並

板井いそけ吳を初めとして不得聯句とて陶諸省
枯少侵別子なれの問ふるまく一聯兩聯
のみ、ありしを韓愈則退之也孟東野なれに
てこれさんなりしるふやうにて其法四
言の格ありて景祐年中に種ゝ格ホのうち第一題
駕凡鞭霆以脱六言の格ありて東坡ホ中にて
凡鱗と云ふ聯ありて庭松偃蓋如轉蓋雨凄凉似秋
六言の聯ありて七言五
有客高吟擁皐無人共喫饅頭と云ふ聯ありて
言平五字共ニ平仄五字共ニ仄
くりといへる絵中入言ふ正格や

ふ言第八半〻絵奥中第〻なるほかり
見及格〻〻常に虚せ〻と云ふ絵
を連詩ふかめて一元よりて称詩人キ子を
凡絵といふみあへるものひ〻安陪乃仲丸の
遣唐使〻〻帰朝せんとするに詩を賦
〻〻とる人ありるの詞ふいく
日本晁卿辞帝都征帆一片遶蓬
壺明月不還沉碧海白雲秋色満
蒼梧
仲丸これを賈く

あまの原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出し月
をもよめり詠し詩の道は国ををさめ家をととのへ
れば情内に蓄し言外にあらはれ人を
呼吸せしむるのみにあらず鬼神をも感
ずるなり起ふやまと歌は人の心を種として
万の言の葉とぞなれる世中にある人事
につけて見聞るものにつけて思ふ事を
口にいひ出せるなり花に鳴うぐひす
水に住かはづの声を聞ばいきとしいける
もの何かこえざるをたれか天地を動
かし目に見えぬ鬼神をもあはれと思
はせ男女の中をもやはらげ猛き武
士の心をも慰むるは歌なり

百四十四

乃国を治る日の本は神の国なり人と血とを
盟とし君臣の分世々に王化をあまねく
ひろめし文道の教句并に平句こそ神を唱句
の法先平字毎に平上去入の二声を他声と一
口声と号ずるなり振さま九要の大概をしるす胡侯神珙の三十
六字母の振さま九要の法一字十二の声を備ふるなり
支流をとしいとも只声字を宗句府句場句の
はけあるよりつけんるものなり毎に浮として字をよむべし
しるべよ人皇九十二代後二条院の時字遠仁の虎関と
いひける僧をつかはし詩に作りたる五字句を
を案ずくられと名づけ三字句を
られを平とし次の重の囲これを上声とし下の送の字の囲
をを去声とし入声のものは別に立て屋漏痕
ホの筆法をあり世にそなはる法文は頗る難しと云句とい

規矩とは浮和又これよりていろ〳〵ある一本の字乃通りい感衝のあるべく皆平声と知べし 系らしてはとら也

平仄

平仄とそのくとい一句五字乃内 平仄と立まつくとくるるとい

ふ 為音とりさまへ

〳〵とくい一本の句の内ふ凍の字とほるるるあさ仕字ものとコホリと後

時平なるコホんの時一仄と又中の字とナカとよみウチとよむ時平く

アタルとよむ時一仄あるく往句〳〵

乃字乃彼平ふりんく笑也しー系字儀く

仄三字又い平三字

つるさしるるとそ〳〵ふ 二四不同にとくへし

下三連と云 一句乃字の内下へ

仄るるへ

真諄 人 平

真諄 元魂 遠 仄

删山 鴈 仄

虞模 無 平

真諄 信 仄

弘治二年八月二十一日千句第九の

清和なり唱句

仁如とあり

入韻乃句い紙句乃字乃

ふりゆく春い唱句と

なるるる

唱句と

入句といふその赤い結乃巣句よあて

いよとる物ちとらへとも句字とへる乃

仄る平字を除く句字

真諄 元魂 遠 仄

删山 鴈 仄

虞模 無 平

真諄 信 仄

弘治二年八月二十一日千句第九の

清和なり唱句

仁如とあり

入韻乃句い紙句乃字乃

ふりゆく春い唱句と

なるるる

唱句と

入句といふその赤い結乃巣句よあて

いよとる物ちとらへとも句字とへる乃

仄る平字を除く句字

仄も句中ふもちいるとも右の清乃

入韻

カリノコトリ

雁乃字乃 狂 誹諧ふい

白キハ平

黒キハ他

真句 春

虞句 雨

麻句 花

删句 顔

屋句 撲

宗更

東 風

先 眠

陽唐 棠

立圃

唱句乃字乃内 真諄乃句 麻の韵 删山句ふ

句の韵中ふん平字 仄るる句中の平の

声と隙〻一東先徐陽唐なとは平を用ひ
さ付り殘中一句乃下のうゑりにきひる韵字と
いく一きの通句とゐる物し
和漢い和の方ゑく短句の和乃句字とま
ゑく紙い漢にゑくへ玄入韻〻ゑ通し
ゑを和の表句乃中に出る平とのゑくさ
ゑりゑくへい

寛永十五年九月廿五日御會

和漢

雲に月 衣乃孫は光り小　前関白

露　息　御　砌　苔灰　沢菴稿

對句　虫　吟　詩　有　助　御

雁　断　信　無　来灰　一絲和尚

いやうゑは学の紅葉立ゑ乃　黄芩僧正
松乃ゑ〻しゑ出ゑつゑは中納言
ゑ〻ゑる後色ゑ者ゑの声　久起盤

暮　村　水　迴灰　僧梵鉴

かくのゑく西八句乃内　江
て乃内に對一とゑゑるは　編句和句なゑは
字ゑゑ〻一きの通句とゑるゑゑし　編句の下乃ゑゑは

作る圖のごとくなるべし　たとへば御砌苔とある砌の下のと
を入句にやとあるを通句とし　きりにつゝる苔の字夜咍の句
アそれ夜咍ふつゝゐし　末の字迴の字ゝふ夜咍の句中の字く
第いこれ　名称乃うゝに對句をくるゝうゝに他
みるゝ　淫和の時は八句も和淫の時八句も淫和
おゝて八句の内朱引の句をゝゝに
東坡山谷杜后人名竜門雲客　不の名用え乾徳子春　号
子春賈誼おの嫋ホ乃　景祐ホ乃　系軍可る大
白雲の詞陽篇の名史記周礼　書乃名　犯寺なとゆん
篇の曲なを乃　礼記ホの
官名これを朱引とゝなり
百韻乃内淫又ナ句和ナ句とゝ色一
花ロホの内淫に二句和ヨ二句まるへし

月秋和淫ゝを出ちに又句つゝるゝ名
雪ホを一元乃句乃物を和淫いるもホりも
おゝちに三句ゝを色一他一方に乃ゝるも又
ゝゝゝゝ此外吳名ヨ出る乃のものい和淫
出ゝゝゝ長ゝれを一元二句のホい雙方とのく
一句つ貴色一
又句去三句ゝ乃ゝものいまる龍字ホ乃ん
つゝ貴ゝ　ゝ淫和ゝゝい乃字乃ゝゝ庚耕清の句ホく
唐の句にある方ゝゝ　ゝれも淫和ゝる河ツラナルといふ字ゆんくつゝ陽
ゝれもユクとふゝつゝ　京庚句ゝゝ元姓色出ゝ
けやゝゝ元ゝの下用於ゝ長句外の字ホとゝ乃

[illegible]
淫白和句ともに五白と限りやんに 但淫の字白あり
和いゆるに 爲て 靜い 爲て 文〜淫〜 寿〜 一元八ともろ
[illegible]に但西とうへ〜〜〜
對白に爲〜の品あり色對爲〜〜黑白に數對三
に一方 色對 仙と 物對 鳥翼と 同對 山野と 異類對
と対れ 方と 馬蹄や 江海と 雪と紅と
[illegible]と 爲對 月系と 音對 南と 義對 雪と風と
[illegible]と 扇對 隔對 句中對 等乃名あり 爲〜〜
[illegible]〜〜合掌對〜〜〜〜〜〜
[illegible]〜〜〜〜〜〜

入韻字畜累

東

公 机 桐 空 中 落 孔 同 老 濛 空 裏 戎 聰 功 謝 攻 紅 忠 穠 忽 蒙 充 崇

冬

松 海 農 濃 容 邕 松 龍 宗 容 傭 恭 蹙 供 蹤 春 紅 鄉 扇 幽 徒 任 強 手 攻 鼓 沖 終 侗 裏 汎 融 蓬 洞 終 侗

江 八百字元所見 宮 渤 海 狗 猪 猟 池
時 渤 海 貢 物 者 旭 川 の 北 に 池
知 る 枝 々 梨 の 果 梨 り 芝 え 多 し
猟 獲 る 遼 海 獺 皮 垂 れ
海 獺 皮 蓉 毒 度 海
犯 基 礎 と 樵 寅 刻
酪 尼 師 猟 師
物 只 山 京 郭 只 遼
み 脂 儀 の の ぐ る 羽 し

支 時 知 る 枝 々 梨 の 果 梨 り 芝 え 多 し
猟 獲 る 遼 海 獺 皮 垂 れ
海 獺 皮 蓉 毒 度 海
犯 基 礎 と 樵 寅 刻
酪 尼 師 猟 師
物 只 山 京 郭 只 遼
み 脂 儀 の の ぐ る 羽 し

句 影 句 鼓 蛙 鼓 各 鼓 相 り
鼓 退 支 柘
蔬 藁 猪 蹄 鹿
匹

厚 渤 海 烏 豹 蘆 変
柘 楂 郭 廚
窰 呉 万 紀
鵝 紀 柳 鼎 伊
丈 丈 孤 奴
結 本 奴 龍 極

劬 須 雷 人 鈴 物 蝶 甸 畧
茶 荒 匊 蒔 組 畧 ㊀ 臺 垣 基 疱 畧 隈
唐 塔 魁 面 台 蝶 張 額 表 樓 来 比 来 韋 来 牲 誘 陪 俛

畧 捲 宍 回 畧 畧 立 回 酌 拵 閑 生 罷 巳 罷 哉 ㊀ 春 涙 沸 神 山 祁 本 祁 人 姫 人 賓 顔 蒔 猩 賓 民 人 民 人 民 濤 孫 畧 麿 畧 畏 捐 旬 偏 猟 張 教 猟 苟 唇 馴 睦

奚 ケイ 啤 ヒ 紀 キ 雑紀 ザッキ 篠 ショウ
擅 セン 蕭 ショウ 巾 キン

元 原 ゲン 源 ゲン 黽 ビン 形 ケイ 元 ゲン
昏 コン 鯤 コン 昏 コン 蕩 トウ
孫 ソン 鯤 コン 孫 ソン 黽 ビン 鯤 コン 猿 エン
実 ジツ

寃 エン 綱 コウ 端 タン 小端 ショウタン 葉 ヨウ 大葉 タイヨウ 枯葉 コヨウ
冢 チョウ 冢 チョウ 安 アン

竿 カン 瀧 ロウ 般 ハン 悅 エツ
猴 コウ 宮 キュウ 倍 バイ 人 ジン 鐵 テツ 鍛 タン
鞨 カツ 瘢 ハン 牆 ショウ 紀 キ 看 カン 奸 カン
降 コウ 漢 カン 擬 ギ 刻 コク
鍵 ケン 撥 ハツ 薩 サツ 蔓 マン 禪 ゼン
帆 ハン 鑿 サク 第 ダイ 丸 ガン 接丸 セツガン
元 ゲン 天 テン 田 デン 川 セン 泉 セン
亀 キ 古亀 コキ 川亀 センキ 探 タン 宮探 キュウタン
船 セン 亀 キ 紀 キ 人 ジン 鵠 コク 去 キョ 人 ジン
連 レン 紀亀 キキ 延 エン 千 セン

測 乾 硯 窯 消 堙 壟 塚 踏 肩 眼 妊 眼 喋 踏 姚 阡 蕪 細 廓 池

菊 孔 澈 青 菌 消 垂 猫 鈴

欽 河 魚 河 波 海 坡 窠 倭 海 他 海 垂 麓 鯛 喋 色 那 辛 波 他 陶 魚 陶 桐 狐 鞠 誉 挑 跳 調 踏 猫 招 剣 猫 鞠 跳 踏 猫 招

麼 荷 麻 和 禾 茄 荷 蒔 義
柯 鉦 蒔 弼 弋 蒔 蒔 蒔

廟堂の廊
庚 宮 芽 更 稈 高人
揺 英 丹英
鳴 鶯鳴 紅 生
鳴 蘆鳴 清 古清
冠 耕 京 無
尤 秋 流 測 身 秋
牛 頭 恵
擣 淋 倩 梓 候

これ 聽候 猴 區 雛
眸 味 頃 投 偸
蕊 休 閑 関
鯛 柔 由
俳名書入韵字の
悪いきるさん 余いきるさん 紛しさん
俳名書一座小一所 いきへしさるやうるゆしと
古人乃作例
与仁忘巷陋 金客酌沙嬢
扇市買擺開 錦城下米唯

[illegible]乃聯句もあるも誹諧ハ一万葉書ひ[illegible]

俳句ハ一[illegible]

連綿字ハ上截 截ハ隷字[illegible]截ハ作ル本音セツ[illegible]

[illegible]の乃ふ[illegible]むの[illegible]晋乃王右軍ノ草書 下截 せつ[illegible]水ありこれの如く

に上截下截左方右方怪字とあり今従要

偏 偏ハかたよる[illegible]ひとへに右ふ[illegible]せるを偏といふなり 傍 傍ハ[illegible]

義之ノ字に[illegible]と右方とふ[illegible]イ言イの如く

[illegible]ハ偏を[illegible]その[illegible]ハウとふ[illegible]

義之ノ字に[illegible]と右方とふ[illegible]

とつくりとふ[illegible]方に偏ある[illegible]

字体ふ[illegible]と今一字左ふ[illegible]て作字[illegible]

章句 [illegible]孫 [illegible]

二つ物ハ別の物と二つ[illegible]連る 二つ[illegible]

底迫りい 納涼 [illegible]ふの[illegible]点付

[illegible]を[illegible]

[illegible]ハ朱[illegible]対[illegible] 但[illegible]の中

に[illegible]て盧押ノ如[illegible]字あり盧押の如[illegible]

[illegible]孫[illegible]蘊[illegible]に[illegible]ありと[illegible]対

[illegible]

淑気 端青 芳卅 和語[illegible] 管律 貢茶

金衣 [illegible] 鳥衣 [illegible] 解 [illegible] 鶯語 昌孫説ハ[illegible]

彩孫 霖 和語[illegible] [illegible] 昌孫説ハ[illegible]

懸鶉 [illegible] 彩孫 爽 黄[illegible] 和語 金気

[illegible] 荔枝 勅 荻花 嬋娟 [illegible] 孟茄

[illegible]帽 いつれも秋[illegible]

梅　春信　守歳　和泉　凍柳　凍蝶　勅

いろもかをとゝ〻〻〻

なる拍子云々又は山家外花おもしろい紀
に山里の秋ふかくやどもとめ入り〳〵風流を尋たるとに
新しんと高物乃外花いまそになりそれを今
さらにせんさくして何ぶんもあれども尾
拾出せるゝん外の花にてもあるまじにおもしろ紀
牡丹句作の俗りとおもふ不あるふあいて〳〵季
花を見事の句出来見事の句乃河
えいひ出せるもうさいて
傳紀の密
文城賛いにおもしろい辭の名ふふ

落紀乃密

何人乃出くみつゝ縄〳〵ら
紀をまつたとらつるの紀れ文字にも虚実と
いひ句の義に出たしゝ法も紀と出るね拍
ふとなるなるへし

神帰出こゝ紀と
紀出く神も旅寝の月数ふ　芭蕉

誓文拂と
拂ふ乳小神もえ出る誓ふれ　鷺水
紀ようつ文字ようつねあり口伝ふい

くく寒字ハ掬庵ちゐい掬にとも兎とくしとく
紅葉いわくく石〜

箕面夜滝　應休計子需

滝しゐくく箕面小隣野ゆ踊み

夷講

驛路朝市　同

カゝに祇あり乃日やえひと傳

賭杠掬小籠やゐぬさを箕の市　同

待恋　同

結言や縄の蓮子を叩みも

茗紙ハ詩の涙物〜なるゐ石〜

源茗

ゆ紀月ハ中〜ぬゐ紀扇ゐ紀　同

結のんとうけく風情とゐる海

莫嗔野店無着接薄酒堪沽豆莢肥

見ゆる亭にとい彩沼ゆ　其角

文乃んとうけく沼とゐく海

讀愛蓮説

月盥〜人いこゐ風と箕の茗　蹲水

紙書の詩とゐくんとゐる海

京なる示京てりほうの花乃ほ　改立
佛經乃詞のんふなりてとくる姿　踏水
罰倫盃　似家婦乃第よ落てる木の実　踏水
もりてんんりとりてる姿
なりもの家井居ゆて紀糠うな　幸佐
古語りとてしく沒てる姿
きり来るとて此もとや魚ふて　踏水
なこのんふなりてる姿
なこのんふとてる姿　三ふとせのてふ桃さけりふ堂　似紅

なりてへかてがもある汐干ふ　踏水
かりしかとてる姿
る鶴と吟ふや富樹の小盃　伊丹　踏卵
れてれしとんる姿
髮りしや振ふ打てきとけ　踏水
こまやなる示ふ月とあてる姿
ありてふ肥てして嶽の玉　辭吉
てこの月京と出て結いふんふ　踏れ
いうもかれなりとんる姿
富士にてつて三月七日八日ふ　伊法

あかつきとつんでるまくやさとみ浦ひてる姿

さくらみやの宵ゆりくさとの雑　孫入

何乃結ひてるけくひもなく口號に云捨てうやまつる西姿

まつてく見しれる姿　衣入地蔵乃浄をひとへれ　義明

つゆ瀬川こころさやあく船の野　化敬

かのうく女めさきてる姿

嵐さへ篠すくあやてるう衣真実　碧子

こゝかさたつうこゝろ姿

あくしたと変つさ事あり写実　鞍入

あいさにいとかとゝろこゝろ姿

うこゝ称や見ぬしくの桜り　鬼吾

黒髪しきる姿

上吉とくふや線乃やれやう　桜家　西吟

見ゝこゝしる姿

みつめれふ鞦を出くとみふ　碧水

実とはこゝる姿

つしめや尖雑あくまのさるす　義風

さつまこゝる姿

紙老松に何と老白髪をつくれ神の松　碧水

これとかくかくなる事

しかく絡繩いあつまるのごとく言水

彼とかくかくこれとかくかくなる事

欲言ふ所をのむしよりかくれも思ひいたりて

了簡しかくする事

翌日やこ粧ひかりかくれも洗面体斗

嵐とかくかくなる事

文西も筆の冥加や世くのち鳴る

心かくかくせかくする事

緻しかくもやんごろり杜鵑月

かくかくゆく事

強者かくかくに居る強く勇を欺き悖逆やこと

やくむくと挑け寄せ

眼さかにい虎をも羅ぬもよくかくつ色

いきわひある事

何奴そ弱分に堅ふきくり圖水

不戰しかくかくと方寸会しかれ一人

の敵ふあつるくの風なし表よい韓信の勝とく

くるかん笑ひと倣ふ仰く裏にい帰公の万

世の勇とたゝふとういうんとる姿
たゝへい鈴音乃徑かん世宮八面ふ打波しく文
字のつゝぬ色なく言句れ示とへさをなす
向上乃一路作麼生ゝ云しんなういうんう
ゝゝ庭の姿
知恩院の一重櫻い咲ふゝり　信德
さとへい円光の表乃ち光とゝまゝに会伝ふ
をあゝ一文不知ん身にゝゝとう知ゝひけ
む孰しゝ俗耳知つの人ゝ哉ゝ乃姿

井陸の惣竜り向しい寄ものゝさゝをとも
彼ゝ欲ゝ孰ゝ不と見彩ふ波浪乃形了起ゝ
煙かん巻に生るゝ乳ゝを南溟蒼海の廣き
ふゝゝ及いゝあ形のゝゝ具へ持ゝゝ今こ九教
祈よ如しつる筆い彼井中にゝ生せる蛙ふを
考つゝゝ変幻乃行狂い御溝揑籬の徑を遠る
をなく連歌入門い梅窓紫霞乃ゝと間ゝる
孰ひふいゝゝゝ仏ゝとゝ中に糸ふ
ゝゝをかをゝい家ゝゝ人とゝみゝゝ取色

さ智も消し徒小御談遠祝の撰車に把る
馬代場さんさ先輩さん句朋友のみと並
色自の枯撰をもさ長頭杉の丸奸と
論ふなると是も他の句而と奪も掠うく
家の句いもさや人乃名所云おしめても家
外と元ふさなを夢ゝみもやひ四さふ
人面獣心さん浅ましい根性ようと見い又祈る
きうもかさうらいてをなりく悪いく痩
なんを角いて用ひらもしや睫の一をら
とふく黄河の激浪と拒く志をそ出まう

先ゝ吾ゝ道乃奥義い俚諺狂言ものさんなる
に例ふれをを内秘菩薩の救世さん行と行へと
求ゝさいの善因をもさん媒をを乃出然るに
よ世ゝ丸明哲の授受ふも仏といせあて又戒
十善のやてゝれを勅ゝをせさゝあ他の橋板と
笑ひて自家乃屎擬と呼をゝい中をとなら
さゝ世ゝ前ふちゝ代ゝし短ゝあとゝゝめ
浪らの風と句のとに誌ゝく和学よ言とゝか
さん耳とやをあゝさんとゝあふゝて

和歌の詞寄

月とはんとその間あり月の出るおい
そのいろあくなることをさしていふと　されてる　と八日
くとふくとは科照と書く社よも斜陽　かみのうそり　七月八日の
とふ　あくひい日哽とも書　月をそ
きとのゆみそり　廿二日　もち月　八月十五夜　八月十四日
とふ　廿三日　とふ　いさよひ　十六日　とふ　いさよひ月　といふ月
ふ十四日の月　いさよひ　十六日　とふ　いさよひ月　といふ月
ふるる　あるいは山のえに月の出やすいとふ
ぞそちつ十七日の月　ねるまち　十八日の
とふ　月　ふけまち　ねまち　待まち
いはれも十九日　ふけまち　廿日の月　ありあけ　たるの涙　ありあけ
の月とふ　ふけまち　廿日の月　ありあけ　たるの涙　ありあけ
ふく　夕月　ヤミ　ふく
ふく　夕月　ヤミ　ふく
ふく　夕月　ヤミ　ふく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かつらき　うるみつらき　いろれも　さゆつたえのたか　ゆり
あつのく　ひろとつき　ひあゆり　とらつる　ひのあゆりの　ひのあゆりをとらつる　ひとらつるハ　ひとらつる　ほつまつる　ほつまつるとハ　ほつまつるとハ　ほつまつるとハ

とる　魚さけひ　ぬいろ　いれもさう　めとりつき　ぬさ
くのみるまひこめうりハ味うれ　ぬと　えをり
えれこのこめかくるをさうくるふ　ぬと　えをり
人より　たくまれ　あとえる　くものこの海
まにあれ　まのま　きてとふ　きつのま　うまき　さか
とる牛　せみのしくれ　せみのかくこの志
てかく　ちやまろ　ちくろ　ちくろの　さわ　名あり　三つ
乃くみ　いふさ　ふさと　ちくさく　ぜんちの　日上
あうん　さいの　きつく　すくさ　白の四つ　ようえ
きのかう　えとりの　えとりの　かう　いれて　伊勢と云　か
まれさう　隆慶の名あり　そくみかくさ　てうかく　うもの

のまつれ時　あるまの　稲人さう　年号と寿永元年　当年
ちちや人　いちちやさ　やその　ちまく　あの人　ふの人
の者の人　ちくろる人　人とふ　ふの人　ちくろ
ちくうと　元十の弟　かくを人　ちくひ人　とふ
て人　ちくうのあて　やうま　ひとせな　あ
うきくとふ　まちや人　きちやうの　あるとふ　実
さいちくの　うつし人　うつの　あつとの　ちけ人　原氏ありうよの
うひおく　人とふ　円位とふ　
きりれち人　ちくる　つまし　しの人　俗世よ　人ちくし　ちい人　ふの
のくと　ふうり　うちさの人　れけりそ　にまちる人　そむちんの　なと
ふうり　うちくの　ひくる　とちくり　
稲ちけ人　うくあて　あちくり　稲い人　ちくり　ゆのちみ人
ちいちの　ちくの　うたて人　ちくう人　うたて人　ゆえ人　ゆえれ　あ人

まれ人（客人）人しるべ（ひとをふ）人をかしづくるいとをとらふ
人をあるじ（人をもて）人のえけしき（きとらふ）人屋
ふかう人あひ（副車と）人のおさ（人のもとをそ）やくそ
人をいとをとうまりいて人（人いそといとひ）まうとさ（人とす）
うしみ（人とつ）なをとくしに（けきさ）人とらふ
ふうとうまりとれとあしに（なとこと）あれ（とれと）あぬ（日上）
とれのけしに（とれう）人うと（あんちと）なれ（日上）なう（日上）ま
しう（日上）きんちう（日上）おりつちう（おりつ）いうとうかう
とのとに（とりつ）みうとう（のうとう）おうさもう（とうの）とうや
とり（非思）とつる（人とう）うひ（みとう）みとう（おうあれ）

おさ（下サを）いうとうとうあ（たとうあ）いふとうあ
いちう（市）とのあさう（とうち）おうあ（屋をとて）いとせ（ちかの）
いもい（妹せい）せか（まいを）（義）いを（ハナカリ）いとかり（伴之）こあみ（義）
うこさ（つまと）野市（とうま）とうまつ（とうま）ちの（やの）
とうう（とうう）ちう（ちう）父（たう）とう（母）
ちう（思）とう（とう）とう（とう）いう（人のこ）（エノ）
うう（つう）なれう（えう）うえう（狩）（えと）いう
えう（えう）ひうの（親族）（えと）ひとそう（一そく）のうひとう
ろう（ろう）あけう（つのかう）（アク角）おつかの
らひ（のとと）人（とう）うきめ（あまと）ありうれる

あそひこの　あとときみや　まうけのこや
いふもく　いえこや　ひこさのくを　きう
ゑのこや　うえこの　うとのいけ　あまつ
え　みこ　えこのこか　きいてのえこと　きんこうのこと
家のこ　（イヘ）　おとろろみち　やくこのつき
ひこうの　みことこう　あうこみ　出国を　ひかく
ひこうの　にのこ（リチ）　ひこさか　にさこ
くちこさよかこね　くこ　きこと　たみ
ここのいひこう　くちつここち　ひこうこと
ろく　ゑこと　身（ミ）　ゑこと　あい

こ　ろろく　ろこ　ろいこ　ろいこ　こ
の　ふこ　ふつこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ
ゑ　ゑこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ
ゑこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ
ゑこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ　ゑこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一れと帛無とらつく月とうつの表紙を書と
就題就のしるしふあるしに文の題の義なり
一摘就といふを帛無とあるるたとへば詩句起
句案句なりと一字つゝ用ひ又は文史等
等は一句一章と截るもあるひを要めん
絢といくいを書くさを題賦とさつるとる
るもあり意角さつり就といその字ふるル
人数なと就と書くひつゝまつゝ硯のふ
とるふ入まて出とはんゝよ一句完とつゝ
そのつりあるつり書る就ゝとるといふ

一歌仙といふ五言といふのう
ちあれ節のあるゝ首夜の夜のく
しめ月日更衣いふ表もとふ見卯月
一日といへども文の就ふむひく文衣の句と
るいもありぬ文衣とふ就ゝそ夜
けんこういとへ立夏と同し奈い
なるゝて就るる也
一雅の春雅の秋ふとふ白ひるいかの習と
也
一花乃就ゝく櫻ゝいとへ櫻の就ゝ花と

いふ句をへうし

一梅花久薫とふ新いろ多年多しみんとするのうち
ひさしく久しき心ゆていあるへうし

一松樹雪とふ歌ゆくいとふんを又ゆきをなふんを
しくよう

一雪の雪と殘雪やいつまをもの新なれも鄙う
ちりめきへし殘雪とふ雪をのまし殘雪る雪
なり雪の雪といとふあげくふるんくに殘しし
云ふ殘雪と出しる歌ふく殘雪のこ殘と句
ひくるいう殘雪とあるふをの雪といて雪る

一隣梅なやいこしやる濃の字ひんこ歌ことあり
と殘雪句梅のうなこ梅花ふく又彩梅
なしへてんるうあるゆうきふくを
新よかふ色し

一野亭酒店や出るいつまを昭和家のんを仕
しくよう

一財布や出しる影ふ新乃新なり新
ふい秋のふ影ふるよるんかせも本いを新
なり秋乃をよを仕をへ殘ふ秋をへ雪
ちまをせていみを但雪のをの秋をを作

一 ふくいろとも見えて海辺とも見へて秋に侍
柳糸に春とゝのふ色のうゝまさるとつらさとる春よ
色かさのあをくゝ春のうゝ色をあらはしたる
一 海色と出したるかハ海のうゝ色ひ嶽湊かゝ
いつくよりかくも叫ぶ色
一 旅泊旅ゆ羇中いつまを篠かもとをいさうん
うくる色
一 夏の部より餘花と出したる夏まくも孤ふ
花のくゝ文才立の中ふくとゝふ
一 孤花とゝふ中久しくゝ孤ふとゝて

一 孤峯の霞なくゝいふ訳にて海やを明り句作り
てかもくゝ
一 樹陰納涼或ハなかいふ訳の樹陰乃字ハ木
かゝ蔵又ハくゝとゝ色し表かゝ紙白つゝり
かくかも孤なし
一 二星適逢とゝふ色ふかゝのあはせとゝ色し
一 深夜ハ夜のふけるゝとゝ晩更とゝふ
とゝふ色
一 商律欲尽かゝふ訳ハ九月尽なり季陽已閑ゝ
とゝふ三月尽とゝふ

一畫栖といかとなるすみのとをとくさ山家い山さと
のんく山住とをとくさ山家居をとるなるとか
ら栖らるる

一宮といかより来る人をとくさ行宮といかゆく人
又ゝい人をとくさ主婚といかるふゆくたの行
をとゝひやるなり

一社頭やしろ神紙をとくさ祠いつまを神のしる
と白作にをとくさと和をとくさ

一ゑ卿をとくさ訳いとかをとくさ
人授業にへし

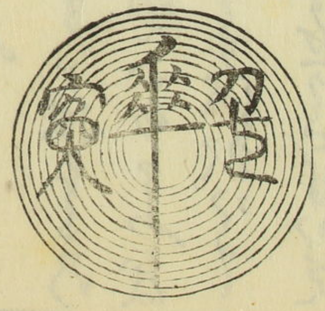
牧け外いくとをとくさ筆かをとくさ
をるはをとくさ絵いまをとくさ

右筆手の条ゝい様筆ふをにをとくさ授をる乃
人と月沢乃屋ゝ巻ゝ清楷ふあるゝ変
毎ゝ師立圓の四式とはをんをる式和いる
のみひををるをる有ふ先列ゝ世ををるゝ
まかゝひふ沢し又巻四かゝ世つる指南抄紙
神法をにあゝへ部林ゝ我ホの和ゝをふ
明治の奥秘と書をゝ一元図をんを遠ゝ
むゝひけりをゝその云ゝ畫妙乃志ゝいう

てハ君をいくゝとひろ宮あに積つ長秋いく
ゝく北里をゝそ〻ふらんいつくに〳〵ふあ〻に
う

御溝水頭白梅園主鷺水

元禄十一年戊寅二月廿五日



一俳諧新式　全部二冊　鷺水選
一同寄埴　〃二冊　〃
一俳林良材　〃二冊　〃
一俳諧獨り言　〃二冊　鬼貫著
一増補番匠童　〃一冊　和及述
一俳諧独りゐ　〃一冊　芦中作
一俳諧太郎百句　〃二冊　羅人選
附録羅人集
一俳諧初ゝか芳梅　〃三冊　千梅述
一同焼大根　〃一冊　〃
一同蓍之白尾　〃五冊　青夫選
一同増補手たいまつ　未刻　風狀、

明和二年乙酉霜月吉日　再板

二條通寺町西入町
山岡四郎兵衛

皇都書肆
建仁寺町通四條下ル町
中西卯兵衛　板